

Press release

*当リリースは、7月26日にフォルシアがフランスで発表した英文リリースの抄訳です

2021年8月23日

2021年度上半期業績

力強い営業レバレッジとキャッシュフローにより、
6.6%の営業利益率、14.2%の EBITDA マージン、2億9,000万ユーロのネットキャッシュフローを達成

2021年度上半期の好調なパフォーマンス

- 上半期の売上高は78億ユーロ、オーガニックベースで32%の増加
- 売上高は第2四半期に760ベースポイント (bps)、上半期には170bpsのアウトパフォーマンス
- 力強い営業レバレッジとキャッシュフローにより、6.6%の営業利益率、14.2%の EBITDA マージン (2019年度上半期より改善)、2億9,000万ユーロのネットキャッシュフロー (2019年度上半期より改善) を達成
- 上半期を通じて大幅なレバレッジ解消を達成し、6月30日時点で EBITDA に対する純負債の比率が1.5倍
- 2021年度上半期の受注高は120億ユーロと堅調で、2021年度目標の260億ユーロ達成に向けて順調に推移

単位：百万ユーロ	2020年度上半期*	2021年度上半期	前年比
売上高	6,084	7,783	+27.9%
一定の連結範囲と為替レート			+31.8%
EBITDA	513	1,109	2.2倍
売上高に占める割合	8.4%	14.2%	+580bps
営業利益	△100	510	n/m
売上高に占める割合	-1.6%	6.6%	+820bps
ネットキャッシュフロー	△1,026	290	n/m

*IFRS第5号に基づき2020年度上半期を修正再表示 (付録を参照)

2021年度のガイダンスを上方修正

- 売上高は165億ユーロ以上、オーガニック売上高は600bps増を上回る大幅なアウトパフォーマンス (確認済み)
- 営業利益率は売上高の約7%で、コロナ危機以前の水準に接近 (確認済み)
- ネットキャッシュフローは5億ユーロ超 (以前は約5億ユーロ)、年度末の EBITDA に対する純負債の比率は1.5倍未満

このガイダンスは、下半期における世界の自動車生産台数が3,900万台以上で、生産や小売販売に影響するような大規模なロックダウンがどの自動車市場にも発生しないことを前提としています。

直近のキャピタルマーケットデーにおいて提示された「New Perspective (新しい視点)」と完全に整合

- スピンオフの成功と従業員株式優遇購入制度を通じた新しい資本構造
- 中国 CLD 社の買収を通じたゼロエミッション水素ソリューションへの注力と、野心的なカーボンニュートラルプログラムとグリーンボンド発行の成功を通じた ESG 戦略への注力
- 2022年の目標と2025年のビジョン達成に向けて順調に推移

フォルシアのパトリック・コラーCEO より

「半導体不足と原材料の高騰という 2 つの主要な悪影響にもかかわらず、上半期には好成績を収めることができました。この成績について、すべてのフォルシアチームに感謝します。

事業はまたも非常に高いレジリエンスを発揮し、売上高の 6.6%の営業利益率という好成績をマークしました。これは効率的なレバレッジを示すものです。力強い 2 億 9,000 万ユーロのネットキャッシュフローと、堅調な 120 億ユーロの受注高を記録し、高収益成長をさらに加速する可能性を示しました。

自動車生産は第 2 四半期で底を打ったことを確信しています。半導体不足は 2022 年度上半期の終盤まで続く予想されますが、自動車生産は今後の各四半期に徐々に回復するものと予測しています。この点については、コストの柔軟性向上とキャッシュフローに注目することで、レバレッジ解消と高収益成長を実現します」

2021 年度上半期の連結財務諸表は、2021 年 7 月 23 日に開催された取締役会において、ミシェル・デ・ローゼンが議長を務める下、承認されました。これらの財務諸表は監査済みです。

フォルシアが主要業績評価指標として使用している営業利益は、企業結合で取得した無形資産償却前営業利益です。他の用語の定義については、本プレスリリース末尾の「本文中で使用されている用語の定義」で説明しています。

世界または各地域の自動車生産に関する数値はすべて、2021 年 7 月の IHS マークイットの予測（自動車部門。中国については、中国自動車工業協会（CAAM）と連動）を参照しています。

IFRS 第 5 号 - 非継続事業

- 2 月 18 日、フォルシアは AST（音響・ソフトトリム）部門の売却に関する了解覚書に署名し、この事業を IFRS 第 5 号に従って非継続とみなすためのすべての条件が満たされました。
- このため、2021 年の当グループの数値から AST を除外し、2020 年の当グループの数値については適宜修正再表示しています。
- これにより、2020 年度上半期の売上は 2020 年 7 月発表の 61 億 7,000 万ユーロから 60 億 8,400 万ユーロ、2020 年度上半期の営業利益は 2020 年 7 月発表の -1 億 1,400 ユーロから -1 億ユーロに修正再表示されました。
- 付録の表には、2020 年度の修正再表示済み数値が記載されています。ビジネスグループに関してはインテリア、地域に関しては欧州のみがこの再表示の影響を受けます。

2021 年度上半期における主要な業績

以前に PSA が保有し、その後ステランティスに移行したフォルシア株式の分配成功と、希薄化を伴わない従業員株式優遇購入制度（Faur'ESO）を通じた、新たな株式保有構造

- ステランティスは 3 月に、所有していたフォルシアの株式を同社の株主に分配しました。これにより、フォルシアの浮動株比率が 85%に増加し、海外株主の増加と株式流動性の向上につながっています。
PSA と FCA の従来の大株主は現在、合計 13.2%のフォルシア株を保有しています。Exor が 5.5%、Peugeot 1810 が 3.1%、Bpifrance が 2.4%、Dongfeng が 2.2%です。なお、ステランティスによる分配完了から 180 日間のロックアップ契約を 4 社すべてと結んでいます。
- さらに、フォルシアは「Faur'ESO」と名付けた同社初の従業員株式優遇購入制度を立ち上げ、加入率 22%と大成功を収めています。全世界で 1 億ユーロの増資と受け渡し（従業員への株式配布）の完了は 7 月 28 日を予定しています。希釈化を伴わない制度であるため、自社株取得プログラムを通じて上半期に購入された株式は、希釈を中和するために相殺されます。

CLD と designLED の買収は、戦略優先課題「サステナブル・モビリティ」および「コックピット・オブ・ザ・フューチャー」と完全に整合

- 4 月には、水素を活用したゼロエミッションソリューションへの戦略的注力と整合する形で、中国の水素タンクメーカー大手、CLD の株式の過半数を取得しました。瀋陽に本社を置く CLD は約 200 人の従業員を抱え、年間 3 万個のタンクを製造できる 2 か所の工場を遼寧に保有しています。中国で大型成長の可能性を持つ CLD は最近、タイプ 4 水素タンクの国内メーカーとして唯一、中国政府の認証を受けています。
- 6 月には、ディスプレイ技術のサービスを強化し、「コックピット・オブ・ザ・フューチャー」の没入感を高めるために、スコットランドに本社を置き、高度なバックライト技術を手がける designLED を買収しました。画像のユーザー体験や画像処理に強みを持つ IRYSTec の技術力と相まって、designLED は、安全性、パーソナリ化、利便性を高める最先端の新たなバックライトの開発を可能にします。

パランティアとの長期パートナーシップを通じてデジタルトランスフォーメーションを加速

- 3 月には、デジタルトランスフォーメーションを加速し、カーボンニュートラルをめざすため、Palantir Technologies Inc.との 6 年間にわたる戦略的パートナーシップを締結しました。
- Palantir Foundry は、企業が異なるデータソースを統合し、データを最大限に活用することを支援するために設計されています。フォルシアは Palantir Foundry ソフトウェアを使用して、製造から購買、エンジニアリングから財務まで、社内全体にわたるデータへの洞察力を高めます。
- フォルシアの IT ポートフォリオと契約済みクラウドサービスに加えて Palantir Foundry を導入することで、原料の消費を削減し、研究開発の競争力を改善し、卓越した購買力を維持し、カーボンニュートラルに向けた総合的な取り組みを追跡、測定することができます。

再生エネルギー生産分野でシュナイダーエレクトリックおよび KPMG とパートナーシップを締結することで、フォルシアのカーボンニュートラルプログラムを加速

- 4 月には、カーボンニュートラルプログラムの一環として再生可能エネルギー電気を調達するため、シュナイダーエレクトリックと独占的な顧問契約を締結しました。この契約には、欧州、北米、中国、ブラジルの全フォルシア拠点に電力を供給するための電力購入契約を競争力のあるプロセスで開発、展開するにあたって、同社の支援を受けられるメリットがあります。フォルシアは開発パートナーを通じて 1,200 GWh/年のオフサイト再生可能エネルギーを調達する方針です。これは世界全体におけるフォルシアの消費量の 90%に相当し、CO₂ 排出量計算の最も厳しい業界基準に適合しています。
- 6 月には、オンサイト電力購入契約の顧問サービスのパートナーとして、KPMG を選定しました。このパートナーシップでは、世界各地のあらゆる拠点でソーラーパネル設備プログラムを準備、実施、導入する KPMG の専門性からメリットを得られます。フォルシアがこれらの再生エネルギー生産資産の設置と運営を第三者（「開発事業者」）に委任するにあたって、KPMG はフォルシアが適切な開発事業者を特定して契約できるよう、助言と支援を行います。

財務構造を継続的に強化し、財務の柔軟性を強化するための財務運営

- 2 月には 1 億 9,000 万ユーロの社債を、満期 2027 年、利率 2.26%で追加発行しました。
- 3 月には 4 億ユーロのグリーン債を、満期 2029 年、利率 2.375%で発行しました。フォルシアが 2021 年 3 月に確立したグリーン債フレームワークの下で発行された初のグリーン債となります。純収益の全部または一部は、グリーン債フレームワークと合致する適格なグリーンプロジェクトの資金調達または再調達に使用されます。これはサステナブル・モビリティをめざすフォルシアのコミットメント、特に世界中で勢いを増している水素モビリティへ投資するというフォルシアグループのビジョンと完全に整合しています。
- 5 月には、2014 年 12 月に当初の契約を行い、2016 年 6 月と 2018 年 6 月に改定している長期シンジケート・クレジットライン（与信枠）をさらに改定して拡大しました。現在引き出されていない与信枠は、新しい契約を通じて 12 億ユーロから 15 億ユーロに増加しました。また、満期は 2023 年 6 月から 2026 年 5 月に延長され、1 年間の延長オプションが 2 回分、

2028年5月まで付与されました。与信枠の利率は、2019年から2025年にかけてのフォルシアのCO2排出量削減度合いによって変わります。グループでは、スコープ1とスコープ2についてカーボンニュートラルをめざしています。

2021年度上半期の受注高は120億ユーロと堅調

フォルシアは上半期に120億ユーロの堅調な受注高を記録し、2021年度中に260億ユーロに達する目標を確認しました。

フォルクスワーゲングループの受注高が26億ユーロと特に好調で、パサート/スパークのシート全体、計器パネル、ドアパネルが含まれます。

また、上半期の合計受注高の約25%を中国が占め、その67%は中国のOEMでした。

受注高の20%超をBEVが占めました。

フォルシアクラリオン・エレクトロニクスは13億ユーロを記録し、年間目標を25億ユーロ以上とすることを確認しました。

水素は2億8,000万ユーロを占め（シンビオの100%を含む）、年間目標を5億ユーロ以上とすることを確認しました。

2021年度上半期に、フォルシアは新記録となる120件のプロジェクトの開始に成功しました。

2021年度上半期のグループ全体の売上高と利益率

	2020年度上半期*	2021年度上半期	前年比
売上高（百万ユーロ）	6,084	7,783	+27.9%
一定の連結範囲と為替レート			+31.8%
営業利益（百万ユーロ）	△100	510	n/m
売上高に占める割合	-1.6%	6.6%	+820 bps

*IFRS第5号に基づき2020年度上半期の数値を修正再表示（付録を参照）

2021年度上半期の売上高は77億8,300万ユーロで、報告ベースで27.9%増加し、次が含まれます。

- 為替変動のマイナス影響は、2億9,600万ユーロ（昨年の売上高の-4.9%）でした。これは主に、米ドル、ブラジルレアル、トルコリラからのマイナス影響です。
- 連結範囲の変更によるプラス影響は、6,000万ユーロ（昨年の売上高の+1.0%）でした。これは、2020年2月から開始しているSASの連結1か月分（1月）によるものです。

一定の連結範囲と為替レートで、2021年度上半期の売上高は31.8%増加

- 製品売上高は34.5%増加し、内訳は第1四半期に+11.4%、第2四半期に+74.0%
- 工具その他の売上高は2.1%増加し、内訳は第1四半期に+29.9%、第2四半期に-10.7%

すべてのビジネスグループは上半期に力強い2桁のオーガニックグロースを記録しました。シーティングは34.1%、インテリアは31.9%、クリーンモビリティは29.4%、クラリオン・エレクトロニクスは27.0%の増加となりました。

売上高は第2四半期に760ベースポイント（bps）、上半期には170bpsのアウトパフォーマンス

第1四半期のオーガニック売上高に影響を与えた、地域別構成の好ましくない効果は、予想通り第2四半期に好転し、第2四半期に760bpsのアウトパフォーマンスにつながりました（フォルシアが+61.7%、世界の自動車生産が+54.1%）。

上半期には、第1四半期と第2四半期の相対的な重みにより、アウトパフォーマンスは170bpsに達しました（フォルシアが+31.8%、世界の自動車生産が+30.1%）。すべての地域（欧州、北米、アジア、南米）でアウトパフォーマンスを達成しています。

メモ：フォルシアの欧州市場および北米市場への露出（2021 年度上半期の売上高の約 70%）は世界の自動車生産の割合（2021 年度上半期に全自動車の約 40%を生産）より高い一方で、アジア市場への露出（2021 年度上半期の売上高の約 25%）は世界の自動車生産の割合（2021 年度上半期に全自動車の約 50%を生産）より低くなっています。2021 年第 1 四半期には、回復した生産量のほとんどがアジアで発生したため、フォルシアは売上の地域別構成の悪影響を受けました。これに対して、2021 年第 2 四半期には、回復した生産量のほとんどが欧州と北米で発生したため、フォルシアは売上の地域別構成の好影響を受けました。

営業利益は、2020 年度上半期には 1 億ユーロの損失だったのに対し、2021 年度上半期は 5 億 1,000 万ユーロの利益となりました。これには以下が含まれます。

- 前年比での原材料価格高騰の影響と、実施中のヘッジ方針から利益を得るまでのタイムラグにより、2,500 万ユーロの純損失
- ブラジルでの税控除（PIS-Cofins）による 1,300 万ユーロの利益
- 従業員株式優遇購入制度「Faur'ESO」による 1,400 万ユーロの損失

2021 年度上半期における 6.6%の営業利益率と 78 億ユーロの売上高は、2020 年度下半期における 6.2%の営業利益率と 84 億ユーロの売上高と比較可能であり、2021 年度上半期の原材料価格による悪影響の中にあつて、フォルシアの強力な営業レバレッジを示しています。

営業レバレッジの前年比（計算方法については付録で詳述）は 36%となりました。

2021 年度上半期の各ビジネスグループの売上高と利益率

シーティング（グループ売上高の 38%）

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	前年比
売上高	2,270	2,967	30.7%
一定の連結範囲と為替レート			34.1%
営業利益	△23	196	
売上高に占める割合	-1.0%	6.6%	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示（付録を参照）

売上高

- 2021 年度上半期は、400 bps の強力なアウトパフォーマンス（世界の自動車生産成長 30.1%との比較。出典：IHS マークイット、2021 年 7 月）。欧州とアジア（主に中国）が牽引
- 主に下半期に影響する生産規模の拡大により（ダイムラー C クラス、BMW X1・X2、ジープグランドワゴニア等）、2021 年度は 700 bps の大幅なアウトパフォーマンス見込みを確認

営業利益

- 2021 年度上半期の 6.6%の営業利益率は、2020 年度下半期（売上 33 億ユーロに対して営業利益率 6.5%）と比較して強力な営業レバレッジを示す

インテリア (グループ売上高の 31%)

	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	前年比
売上高	1,837	2,376	29.4%
一定の連結範囲と為替レート			31.9%
営業利益	△78	117	
売上高に占める割合	-4.2%	4.9%	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示 (付録を参照)

売上高

- 2021 年度上半期は、180 bps のアウトパフォーマンス (世界の自動車生産成長 30.1%との比較。出典：IHS マーケット、2021 年 7 月)。全地域でステランティスの強力な成長が牽引

営業利益

- 2021 年度上半期の営業利益率は 4.9%。2020 年度下半期に記録された 4.4% (IFRS 第 5 号に基づき修正再表示) と比較して 50 bps 上昇

クリーンモビリティ (グループ売上高の 26%)

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	前年比
売上高	1,646	2,040	23.9%
一定の連結範囲と為替レート			29.4%
営業利益	10	198	
売上高に占める割合	0.6%	9.7%	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示 (付録を参照)

売上高

- 2021 年度上半期は若干不振 (世界の自動車生産成長 30.1%との比較。出典：IHS マーケット、2021 年 7 月)。主に、米国フォードとの取引減少が原因

営業利益

- 2021 年度上半期の営業利益率は 9.7%。2020 年度下半期に記録された 8.7% (IFRS 第 5 号に基づき修正再表示) と比較して 100 bps の大幅上昇

クラリオン・エレクトロニクス (グループ売上高の 5%)

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	前年比
売上高	331	400	20.9%
一定の連結範囲と為替レート			27.0%
営業利益	△9	△1	
売上高に占める割合	-2.7%	-0.2%	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示 (付録を参照)

売上高

- 2021 年度上半期のオーガニックグロス 27%（世界の自動車生産成長 30.1%との比較。出典：IHS マークイット、2021 年 7 月）。このビジネスグループは半導体不足の影響を最も大きく受けたが、より利益率の高い営業チャネルの代わりに、OEM へのサービスを優先

営業利益

- 営業損失は前年比で大幅に減少。半導体不足の逆風が続く場合でも、営業利益は 2021 年下半年期には黒字に戻る見込み

2021 年度上半期の各地域の売上高と利益率

欧州（グループ売上高の 49%）

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	前年比
売上高	2,942	3,806	29.4%
一定の連結範囲と為替レート			29.6%
営業利益	△99	206	
売上高に占める割合	-3.4%	5.4%	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示（付録を参照）

売上高

- 2021 年度上半期は、120 bps のアウトパフォーマンス（欧州の自動車生産成長 28.4%との比較。出典：IHS マークイット、2021 年 7 月）。主に、シーティングとインテリアのアウトパフォーマンスを反映

営業利益

- 2021 年度上半期の営業利益率は 5.4%。2020 年度下半期に記録された 4.9%（IFRS 第 5 号に基づき修正再表示）と比較して 50 bps の上昇

北米（グループ売上高の 23%）

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	前年比
売上高	1,475	1,780	20.7%
一定の連結範囲と為替レート			30.8%
営業利益	△84	61	
売上高に占める割合	-5.7%	3.4%	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示（付録を参照）

売上高

- 2021 年度上半期は、120 bps の営業不振（北米の自動車生産成長 32.0%との比較。出典：IHS マークイット、2021 年 7 月）。主に、フォードの売上高減少の影響

営業利益

- 2021 年度上半期の営業利益率 3.4%（2020 年度下半期の IFRS 第 5 号に基づく修正再表示後の値は 5.4%）は、急な操業縮小に対する補償不足を反映

アジア（グループ売上高の 24%）

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	前年比
売上高	1,470	1,857	26.3%
一定の連結範囲と為替レート			28.3%
営業利益	101	201	
売上高に占める割合	6.9%	10.8%	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示（付録を参照）

売上高

- 中国での売上高は 13 億 5,300 万ユーロに達し、オーガニックベースで 32.3%の増加、450 bps のアウトパフォーマンス（中国の自動車生産成長 27.8%との比較。出典：IHS マークイット、2021 年 7 月）。前年比で 2 倍超の売上増となったシーティングとクラリオン・エレクトロニクスが牽引
- 上位 10 社に中国企業 5 社と EV OEM 2 社（中国 1 社、米国 1 社）が含まれる、強化された顧客ベース

営業利益

- 2021 年度上半期の営業利益率は 2 桁の大幅上昇で、売上高に占める割合は 10.8%。2020 年度下半期（IFRS 第 5 号に基づき修正再表示）と比較して 70 bps の上昇

南米およびその他の地域（グループ売上高の 4%）

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	前年比
売上高	198	340	71.9%
一定の連結範囲と為替レート			98.5%
営業利益	△18	42	
売上高に占める割合	-9.1%	12.3%	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示（付録を参照）

売上高

- 南米での売上高は 2 億 4,700 万ユーロに達し、オーガニックベースで 94.0%の増加、市場に対して強力なアウトパフォーマンス（南米の自動車生産成長 61.5%との比較。出典：IHS マークイット、2021 年 7 月）
- その他の地域の売上は 9,200 万ユーロ

営業利益

- 営業利益は 4,200 万ユーロで、うち 1,300 万ユーロはブラジルでの税控除（PIS-Cofins）による

**営業利益は 5 億 1,000 万ユーロで、売上高の 6.6%（前年比 820 bps の上昇）
純利益（グループ持分）は、2020 年度上半期の 4 億 3,300 万ユーロの損失に対して、1 億 4,600 万ユーロの利益**

グループの営業利益は、コロナ危機の大きな影響を受けた 2020 年度上半期が 1 億ユーロの損失だったのに対し、2021 年度上半期は 5 億 1,000 万ユーロの利益が出ました。これは売上高の 6.6%を占めました（2020 年度上半期は-1.6%）。

- **企業結合で取得した無形資産償却費**：2020 年度上半期の純損失 4,600 万ユーロに対して 4,500 万ユーロの純損失。
- **構造改革費用**：2020 年度上半期の純損失 8,900 万ユーロに対し、4,600 万ユーロの純損失。2021 年度の構造改革費用は 1 億 2,000 万ユーロを超えない見通しで（2020 年度は 2 億 8,500 万ユーロ）、2022 年以降は平常時の 8,000 万～1 億ユーロに戻る見通しです。
- **その他の経常外営業損益**：2020 年度上半期の純利益 1,600 万ユーロに対し、600 万ユーロの純損失。主にスピントフ費用に関連します。
- **金融収支**：1 億 600 万ユーロの純損失（2020 年度上半期と変わらず）。
- **所得税**：2020 年度上半期の純損失 6,700 万ユーロに対して、8,200 万ユーロの純損失。
- **関連会社の純利益**：2020 年度上半期の 1,200 万ユーロの損失に対し、800 万ユーロの損失。シンピオによる 1,100 万ユーロの損失が含まれています（2020 年度上半期には 700 万ユーロの損失）。

継続事業の純利益は、2020 年度上半期の 4 億 300 万ユーロの損失に対して、2 億 1,900 万ユーロの利益となりました。

非継続事業（AST：音響・ソフトリム事業）の純利益は、2020 年度上半期の 1,700 万ユーロの損失に対して、3,100 万ユーロの損失となりました。

連結純利益は、2020 年度上半期の 4 億 2,000 万ユーロの損失に対して、1 億 8,800 万ユーロの利益となりました。

少数株主利益は、2020 年度上半期の 1,300 万ユーロに対し、4,200 万ユーロとなりました。

純利益（グループ持分）は、2020 年度上半期の 4 億 3,300 万ユーロの損失に対して、1 億 4,600 万ユーロの利益となりました。

EBITDA マージンは 14.2%で、コロナ危機以前の 2019 年上半期を上回る

ネットキャッシュフローは、2020 年度上半期の支出 10 億ユーロに対して、2 億 9,000 万ユーロの収入

大幅なレバレッジ解消を達成し、6 月 30 日時点で EBITDA に対する純負債の比率が 1.5 倍

6 月 30 日時点で 45 億ユーロの流動性向上

EBITDA は、2020 年度上半期の 5 億 1,300 万ユーロに対して 11 億 900 万ユーロとなりました。これは主に、営業利益の回復傾向を反映しています。EBITDA マージンは、2020 年度上半期の売上高の 8.4%に対して売上高の 14.2%で、コロナ危機以前の 2019 年上半期の 13.1%を上回りました。

- **設備投資**は、2020 年度上半期における 2 億 2,600 万ユーロの支出に対して、2 億 1,400 万ユーロの支出に抑えられ、ほぼ安定していました。2021 年度の資本的支出は 6 億ユーロを下回る見込みです。
- **研究開発費**は、2020 年度上半期における 3 億 200 万ユーロの支出に対して、3 億 1,000 万ユーロの支出となりました。
- **運転資本要件の変動**は、2020 年度上半期の 6 億 7,300 万ユーロの流出に対して、5,700 万ユーロの流入となりました。
- **債権のファクタリング**は 6 月 30 日の時点で 9 億 9,100 万ユーロで、2020 年度末と比較してほぼ安定していました。年度末も、上限の約 10 億ユーロ以下にとどまる見込みです。

- **構造改革費用**は、2020 年度上半期における 5,400 万ユーロの支出に対して、7,400 万ユーロの支出となりました。この増加は、2020 年下半期に行われた各種判断の現金への影響を反映しています。2021 年度の構造改革費用による現金支出は、1 億 7,000 万ユーロを超えない見込みです。
- **純金融支出**は、2020 年度上半期の 9,200 万ユーロの支出に対して、1 億 900 万ユーロの支出となりました。
- **法人所得税**は、2020 年度上半期の 1 億 900 万ユーロの支出に対して、1 億 4,900 万ユーロの支出となりました。
- **その他の運用項目**は、2020 年度上半期における 1,400 万ユーロの支出に対して、3,900 万ユーロの支出となりました。

ネットキャッシュフローは、コロナ危機の大きな影響を受けた 2020 年度上半期の 10 億 2,600 万ユーロの支出に対して、2 億 9,000 万ユーロの収入となりました。

- **支払い配当（少数株主を含む）**は、2020 年度上半期における 500 万ユーロの限定された支出に対し、1 億 6,000 万ユーロの支出となりました。2021 年度上半期の支出が、6 月に行われたフォルシア株主への 1 株あたり 1 ユーロの配当支払い再開が含まれているのに対し、2020 年度上半期には少数株主に支払った配当しか反映されていません。これは、コロナ危機の異例の状況に鑑み、株主への配当支払いが行われなかったためです。
- **株式の取得**は、2020 年度上半期の 100 万ユーロの支出に対し、1 億 2,900 万ユーロの支出となりました。これは、7 月 28 日に株式の譲渡が予定されている従業員株式優遇購入制度「Faur'ESO」に対応するための株式購入を反映しています。したがって、同制度への従業員負担による 1 億ユーロの収入は、2021 年下半期の財務諸表にのみ寄与します。
- **金融投資およびその他の現金要素の純額**は、2020 年度上半期の 3 億 6,900 万ユーロの支出に対して、5,300 万ユーロの支出となりました。これには SAS への投資（50%）が含まれています。
- **非継続事業（AST：音響・ソフトリム事業）の影響**は、2020 年度上半期の 1,900 万ユーロの損失に対して、2,600 万ユーロの損失となりました。

IFRS16 に関連する 9,300 万ユーロのマイナス影響（2020 年度上半期には 9,100 万ユーロのマイナス影響）を受けた後、当グループの純金融負債は 2021 年 6 月 30 日時点で 33 億ユーロとなりました（2020 年 6 月 30 日時点では 40 億 3,400 万ユーロ）。

長期負債の平均費用は 2.8%未満（IFRS の負債を除く）で、2025 年以前に大規模な債務支払いは発生しません。

EBITDA に対する純負債の比率は、2020 年 6 月 30 日時点の 2.3 倍、2020 年 12 月 31 日時点の 1.9 倍に対し、2021 年 6 月 30 日時点では 1.5 倍に減少しました。

2021 年 6 月 30 日時点で流動資産は 45 億ユーロに増加し、そのうち利用可能な現金は 30 億ユーロ、未使用のシンジケートクレジットファシリティー（SCF）は 15 億ユーロでした。

これは、2020 年 6 月 30 日時点の流動資産 31 億ユーロ（利用可能な現金は 25 億ユーロ、SCF は 6 億ユーロ）、2020 年 12 月 31 日時点の 43 億ユーロ（利用可能な現金は 31 億ユーロ、SCF は 12 億ユーロ）と比較可能です。

2021 年度のガイダンスを上方修正

下半期は新型コロナウイルスの変異種や半導体不足に関連した先行き不透明な状況が続いていますが、フォルシアは 2021 年度の売上高と営業利益率の目標を確認し、2021 年度のネットキャッシュフロー目標を 5 億ユーロ超に上方修正します（以前は「約 5 億ユーロ」としていました）。

- **売上高は 165 億ユーロ以上、600 bps 増を上回る大幅なアウトパフォーマンス**
- **営業利益率は売上高の約 7%で、コロナ危機以前の水準に接近**
- **ネットキャッシュフローは 5 億ユーロ超（以前は約 5 億ユーロ）、年度末の EBITDA に対する純負債の比率は 1.5 倍未満**

2021 年度ガイダンスは、下半期における世界の自動車生産台数が 3,900 万台以上で、生産や小売販売に影響するような大規模なロックダウンなどの自動車市場にも発生しないことを前提としています。

2021 年度のすべての財務目標は、年間の平均通貨レートである 1.21 米ドル/ユーロ、7.80 中国元/ユーロに基づいています。

半導体不足が 2022 年上半期まで引き続き重荷になったとしても、世界の自動車生産は、充足されていない自動車需要を満たすように今後数年で回復し、コロナ危機前の生産レベルに戻るというフォルシアの確信は揺らいでいません。

この状況に鑑み、フォルシアは 2021 年 2 月に行われた直近のキャピタルマーケットデーで提示した 2022 年度の財務目標と 2025 年度へ向けたビジョンを確認します。

フォルシアについて

フォルシアは 1997 年に誕生し、自動車業界において世界的なメジャープレイヤーとなるまでに成長しました。世界 35 カ国に 266 の事業所と 39 の開発拠点をもち、114,500 人の従業員を擁しています。自動車用シート、インテリアシステム、クラリオンエレクトロニクス、そしてクリーンモビリティの 4 つの事業分野で世界をけん引しています。コックピット・オブ・ザ・フューチャーとサステイナブル・モビリティという成長戦略を元に技術の開発に注力しています。2020 年度のグループ売上高は 147 億ユーロでした。フォルシアはユーロネクスト・パリ証券取引所に上場し、CAC Next 20 構成銘柄に名を連ねています。詳しい情報は、www.faurecia.com をご覧ください。

付録

本文書中で使用されている用語の定義

1. 売上高の変動

フォルシアでは、前年比の**売上高の変化**は、次の3つの要素で構成されます。

- 前年度の売上高にその期間の平均為替レートを適用して算出された「**為替差損益**」
- 「**連結範囲の変更による影響**」（買収・売却）
- 「**為替変動の影響を除いた成長**」

フォルシアは、年間ベースの売上高が2億5,000万ユーロを上回る企業の買収および売却をすべて「連結範囲の変更による影響」として開示しています。

この基準値を下回る買収については「ボルトオン買収」と見なされ、「為替変動の影響を除いた成長」に含まれます。

2020年には「ボルトオン買収」による影響はありませんでした。その結果、「為替変動の影響を除いた成長」は、一定の連結範囲と為替レートにおける売上高の変動（オーガニック変動とも表示される）に相当します。

2. 営業利益

営業利益は、フォルシアグループの主要業績評価指標です。これは、以下を反映する前の、完全連結会社の純利益に相当します。

- 企業結合で取得した無形資産の償却費
- 重要で特別かつ経常外の項目に対応する、その他の経常外営業利益および費用。これには、組織再編費用や早期退職費用のほか、事業の中止、工業用地の閉鎖または売却、営業外建物の処分等の例外的な事象の影響、有形固定資産または無形資産について計上された減損損失、およびその他の重要かつ特別な損失が含まれます。
- ローン、現金投資、および市場性のある有価証券からの収入、および金融費用
- その他の金融収益および費用。これには、年金給付債務の割引による影響や関連制度資産からのリターン、金利・為替ヘッジの無効部分、IFRS第9号に基づいて明示できない関係性のなかで定められた基準をヘッジ関係が満たさない金利や為替商品の価値変動、および子会社株式の売却による損益が含まれます。
- 税金

3. ネットキャッシュフロー

ネットキャッシュフローは次のように定義されます。営業活動および投資活動によるキャッシュフローから、資本持分および事業の買収・処分（現金および現金同等物を控除）、金融資産の処分によるその他の変動と収入を差し引いたもの。IFRS第16号の債務の返済は含まれません。

4. 純金融債務

純金融債務は次のように定義されます。総金融債務から現金および現金同等物、非流動資産および流動資産に分類されるデリバティブを差し引いたもの。これにはリース負債（IFRS第16号の債務）が含まれます。

IFRS 第 5 号 - 非継続事業

2月18日、フォルシアはAST（音響・ソフトトリム）部門の売却に関する了解覚書に署名し、この事業をIFRS第5号に従って非継続とみなすためのすべての条件が満たされました。

このため、2021年の当グループの数値からASTの売上高を除外し、以前の期については適宜修正再表示しています。

この修正再表示は、次の項目のみ影響を受けます：

- ビジネスグループ - インテリア
- 地域 - 欧州

単位：百万ユーロ	2020年度 第1四半期	2020年度 第2四半期	2020年度 上半期	2020年度 第3四半期	2020年度 第4四半期	2020年度 下半期	2020年度
売上高							
以前の発表	3,739	2,431	6,170	3,874	4,610	8,484	14,654
IFRS第5号に基づき修正再表示	3,678	2,406	6,084	3,823	4,538	8,361	14,445
営業利益							
以前の発表			△114			520	406
IFRS第5号に基づき修正再表示			△100			518	418

営業レバレッジの計算

営業レバレッジの前年比 (2021 年度上半期と 2020 年度上半期の比較)

売上高 (百万ユーロ)		営業利益 (百万ユーロ)	
IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を 修正再表示	6,084	2020 年度上半期 (一時的な項目を 除く)	△80 △3
為替差損益	△296	△1 一時的な項目	△20
連結範囲の変更による影 響	60	IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度 上半期を修正再表示	△100
オーガニックグロ ース	1,934	△2 ボリュームによる影響	456
2021 年度 上半期	7,783	原材料による影響	△25
		回復に向けた取り組み	177
		連結範囲の変更およびその他の影響	3 △4
		2021 年度上半期 (一時的な項目を 除く)	511 △5
		従業員株式優遇購入制度	△14
		ブラジルでの税控除	13
		2021 年度上半期	510
営業レバレッジ (5-3-4)/(1+2)			36%
営業利益における増加 (連結範囲の変更およびその他の影響と一時的な項目を 除く)			588
売上高における増加 (連結範囲の変更による影響を除く)			1,639

損益計算書

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	増減
売上高	6,084	7,783	+27.9%
オーガニックグロス (%)			+31.8%
営業利益			
(取得した無形資産償却費前)	△100	510	609
企業結合で取得した無形資産償却費	△46	△45	
営業利益			
(取得した無形資産の償却費反映後)	△145	465	
構造改革費用	△89	△46	
その他の経常外営業利益・費用	16	△6	
純支払利息およびその他の金融収益・費用	△106	△106	
完全連結会社の税引前利益	△324	308	
法人所得税	△67	△82	
税引前利益の割合	—	-27%	
完全連結会社の税引前純利益	△391	226	617
関連会社の純利益	△12	△8	
継続事業による純利益	△403	219	
非継続事業による純利益	△17	△31	
少数株主利益調整前連結純利益	△420	188	
少数株主利益	△13	△42	
連結純利益 (グループ持分)	△433	146	578

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示 (付録を参照)

キャッシュフロー計算書

単位：百万ユーロ	2020 年度上半期*	2021 年度上半期	増減
営業利益	△100	510	610
減価償却費および償却費	613	599	
- 研究開発無形資産償却費	247	228	
- その他の減価償却費および償却費	366	371	
EBITDA	513	1,109	596
売上高に占める割合	8.4%	14.2%	
設備投資	△226	△214	
研究開発費	△302	△310	
運転資本要件の変動	△673	57	
ファクタリングの変動	△69	19	
構造改革費用	△54	△74	
金融費用	△92	△109	
税金	△109	△149	
その他（営業関連）	△14	△39	
ネットキャッシュフロー	△1,026	290	1,316
配当金の支払額（少数株主を含む）	△5	△160	
株式の取得	0	△129	
金融投資およびその他（純額）	△369	△53	
非継続事業	△19	△26	
IFRS16の影響	△91	△93	
純負債の変動	△1,510	△172	
当期首における純負債	△2,524	△3,128	
当期末における純負債	△4,034	△3,300	
EBITDA に対する純負債の比率	2.3 倍	1.5 倍	

*IFRS 第 5 号に基づき 2020 年度上半期を修正再表示（付録を参照）